

東京にあるちょうどいいカントリーシティ

13票

■語の意味：“東京にある”は、町田は東京都の自治体であるため、同じ郊外の団体と比べても優位性があることを表しています。また、町田の東京・神奈川論争も想起させるため、人の目や耳にとまります。“ちょうどいい”は、まちづくりの方向性にあるちょうど良さを表しています。“カントリーシティ”は、郊外都市では都会田舎（とかいなか）などがよくつかわれているため、同様の意味を持ちながら、新しい言葉として使用しています。「カントリーロード」という曲があるため、馴染む語であると考えています。

■市民ワークショップでの意見を踏まえて：市民ワークショップのグループの一つが作成したまちの姿にある、“東京カントリーライフ”というフレーズを用いています。（ちなみに、東京カントリークラブというゴルフ場が秦野にあります）町田で暮らしが完結できるイメージや、緑や農、そして都会的なものが混在して、多様な楽しみができる姿がイメージされていたので、“カントリーシティ”という語で表しました。

■方向性によるまちのイメージ：郊外都市は、都会田舎的な緑と都市を享受できるまちというイメージが連想されますが、町田の持つ「周辺都市よりちょっといい環境」が、他都市と差別化された都会田舎であると考えられます。“カントリーシティ”はその姿を表そうとしています。「住む人、働く人・・・近隣に暮らす人までもがワクワクできる」というまちを強く印象付けるため、“東京にある”を冒頭につけています。

ちょっといいちょうどいい暮らしができるまち

9票

■語の意味：“ちょっといい”は、周辺都市と比較して、大きく勝っているわけではないが、少しだけ、ちょっとだけ勝っているという、差別化を目指して語をつけています。また、ちょっといいという感覚は、現在の町田のイメージとして考えられます。“ちょうどいい”は、町田で完結できる、町田で何でもそろそろなど、町田を表現する際に使われる象徴的な言葉ですので、使用しています。“できるまち”は、ちょっといいちょうどいい暮らしが継続できることを表しています。

■市民ワークショップでの意見を踏まえて：市民ワークショップで出た、町田ならではの体験や、飽きることがないまちだ。町田で完結できるイメージを“ちょっといいちょうどいい”で表現しています。

■方向性によるまちのイメージ：町田の持つ「周辺都市よりちょっといい環境」や「多様な人に対しての豊富な選択肢」が、ちょうど良さをうみ、その暮らしが続くことを表した、なりたいまちの姿をしています。

わたしの暮らしが見つかるまち

5票

■語の意味：“わたしの”は、読んだ人それぞれが自分だと感じてもらえるようにしています。“見つかるまち”は、ちょっといいやちょうどいいは、一つの基準があるわけではないため、様々な選択肢があることや自分に合った選択ができることを表現するために使用しています。

■市民ワークショップでの意見を踏まえて：“やりたいことができるきっかけや場がある”“豊かな生活や楽しい遊び”などが豊富にあって、自分に合ったコトや場が見つかるまちをイメージしています。

■方向性によるまちのイメージ：「暮らしを豊かにする物事がたくさんあり、それを思い立った時にすぐに行える」そうした方向性で進んだまちでは、自分に合った暮らしが選べるまちになっていると考えられます。そうしたまちを表現しています。まちづくりの方向性に沿って、2040年まで進んでいった際に、多くの人から、自分の暮らしが見つかるまちだと思われる姿が、なりたいまちの姿です。